

市立札幌病院の概要

平成20年(2008年)9月30日

札幌市病院局

沿革

明治 2年(1869年) 平帰一、斎藤龍安らの医師が函館から陸路銭箱(現小樽市銭函)に到着。民家に開拓使治療所(仮病院)を開設
斎藤龍安が札幌元村(現東区)に小屋を設け仮病院を移転

明治 4年(1871年) 大学東校の医師高山周徳が主席医師として着任
同年6月病室の新築工事完成。初めて入院患者収容

明治24年(1891年) 北1条西8丁目に建設した新病院に移転
以来平成7年10月までこの地において業務を行う



斎藤龍安



明治20年刊
「札幌繁栄図録」
の庁立札幌病院



明治20年頃の
公立札幌病院

大正 9年(1920年) 大火により病院焼失

大正11年(1922年) 市制施行により市立札幌病院となる

昭和 9年(1934年) 平岸分院(静療院)竣工

昭和44年(1969年) 創立100周年



大正12年竣工の
市立札幌病院本館

沿革

平成 5年(1993年) 救命救急センターの指定を受ける

平成 7年(1995年) 本院新築工事竣工 本院移転



旧病院 (昭和20年～平成7年)

平成15年(2003年) 日本医療機能評価機構「一般病院種別B」を取得

平成17年(2005年) 地域がん診療拠点病院指定



新病院

平成18年(2006年) 総合周産期母子医療センター指定
局の名称を「病院局」へ改称
病院事業管理者を設置し、地方公営企業法の全部適用する体制に移行

平成19年(2007年) 静療院の老人性痴呆疾患専門治療病棟及び成人2階病棟の閉鎖により、
病床数は254床から162床に変更
北海道から「第一種感染症指定医療機関」及び「第二種感染症指定医療機関」
に指定され、感染症病棟を開設し、病床数は810床から818床に変更

平成20年(2008年) 病院機能評価(Ver.5.0)の更新認定を取得(5月)
7対1看護体制導入(6月～実施)
DPC病院へ移行(7月～実施)

病院概要

市立札幌病院



病院名 市立札幌病院

所在地 札幌市中央区北11条西13丁目1-1

設立年月 明治2年9月

標榜診療科目

呼吸器科、消化器科、循環器科、腎臓内科、糖尿病内分泌内科、リウマチ・血液内科、精神神経科、神経内科、小児科、新生児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、腎移植科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、感染症科、放射線科、画像診療科、麻酔科、緩和ケア科、歯科口腔外科、病理科、救命救急センター

病床数 818床（一般810床、感染症8床）

職員数（定数）915名（平成20年4月1日現在）

医師104名、歯科医師2名、看護師639名、薬剤師27名、診療放射線技師26名、臨床検査技師34名、理学療法士7名、作業療法士3名、視能訓練士1名、臨床工学技士5名、言語聴覚士2名、歯科衛生士3名、栄養士6名、事務・機械職員44名他

臨床研修医48名（平成20年4月1日現在）

業務量（平成19年度）

- ・ 1日平均患者数 入院：678人 外来：2,011人
- ・ 年間患者数 入院：248,343人 外来：492,576人
- ・ 病床利用率：83.0% 稼働病床（795床）ベース 84.6%
- ・ 平均在院日数：15.9日
- ・ 年間手術件数 6,957件 手術室で施行した手術件数
- ・ 紹介率：31.7%

病院概要

市立札幌病院静療院



病院名 市立札幌病院静療院

所在地 札幌市豊平区平岸4条18丁目1番21号

設立年月 昭和9年8月

標榜診療科目 精神科

病床数 162床（一般精神 102床、小児特殊 28床、自閉症児 32床）

専門外来 成人外来、認知症疾患専門外来、小児外来

職員数（定数）141名（平成20年4月1日現在）

医師10名、看護師86名、薬剤師2名、診療放射線技師1名、臨床検査技師2名、理学療法士1名、作業療法士3名、セラピスト19名、保育士6名、栄養士2名、事務・機械職員8名他

業務量（平成19年度）

- ・ 1日平均入院患者数：118人 1日平均外来患者数：158人
- ・ 年間入院患者数：43,018人 年間外来患者数：38,816人
- ・ 病床利用率：72.6%
- ・ 平均在院日数：175.3日

病院概要

本院施設紹介 ~ 快適な医療環境の提供 ~

中央ホール



中央ホール(1階)

約600㎡あり、2階までの吹き抜け構造と自然採光を採り入れています。

外 来



外 来(1~3階)

各科には中待合室があり、患者さんのプライバシー保護、混雑の解消を図っています。

病棟デイルーム



病棟 (3~10階)

各階にはデイルームを設置しています。

病棟個室



病棟 (3~10階)

一般病棟の7割近くを個室と4床室で構成しています。

病院概要

本院施設紹介 ~ 高度医療の提供と地域連携 ~

手術室



手術室(4階)

バイオクリーン対応をはじめ11室の手術室を設置しています。

MRI



MRI

磁石の力で身体内部の詳細な画像を撮影する医療機器です。

ライナック

放射線治療用の医療機器です。



ライナック

NICU(9床)



NICU(9階)

未熟児や病気を持った新生児を集中的に治療する施設です。

総合周産期母子医療センター

MFICU(9階)

母体や胎児の命に危険があるお産に24時間態勢で対応する施設です。



MFICU(6床)

病院概要

本院施設紹介 ～高度医療の提供と地域連携～ (続)

地域医療室



地域医療室、地域連携センター(1階)

・高度医療に対応する施設や設備は、札幌市医師会との連携により設置された地域医療室や、地域連携センターを基点とした病診・病病連携のなかで有効な活用が図られています。

本院施設紹介 ～道央圏の三次救急の中核～

救急ホール



救命救急センター(1階)

・総勢20名強の医師が、年中無休の救急診療体制を組んでいます。
・札幌市や周辺の市町村から、年間約1,100件の重症患者さまを受け入れており、道央圏の救急医療の中核を担っています。

屋上ヘリポート

・屋上にヘリポートを設置し、広域救急医療への対応を図っています。

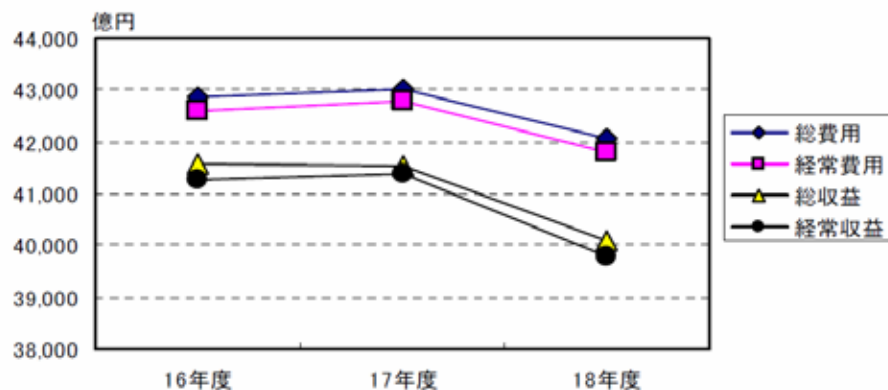
ヘリポート



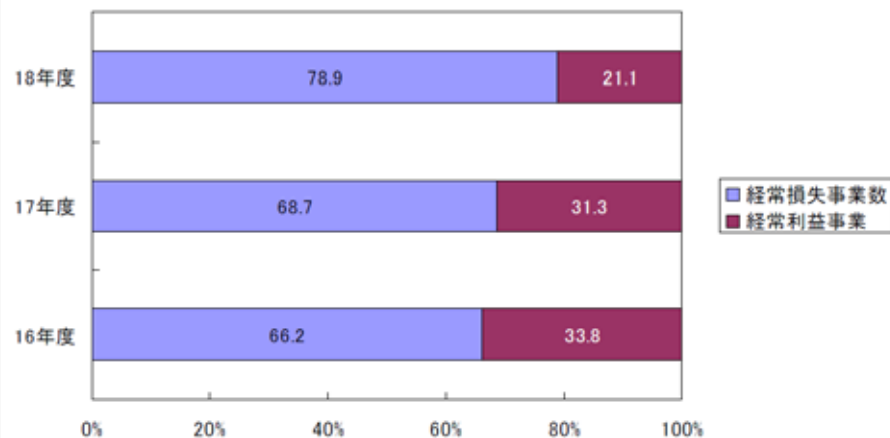
経営状況

自治体病院の経営状況 ~ 8割が経常損失を計上 ~

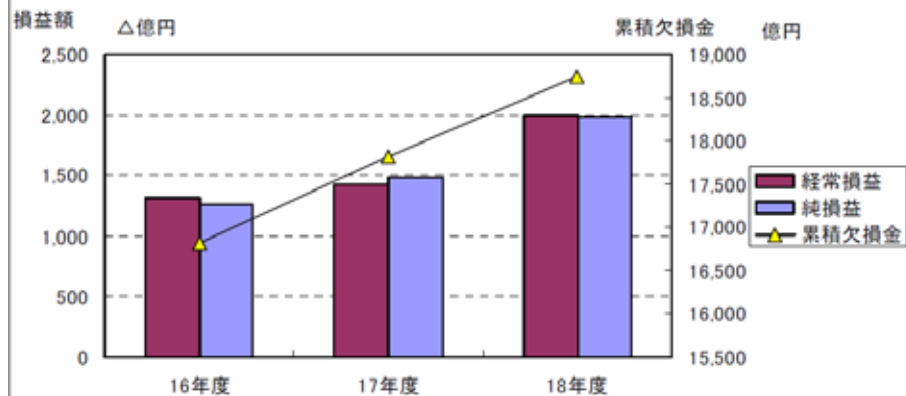
(1) 収益費用状況の年度別推移



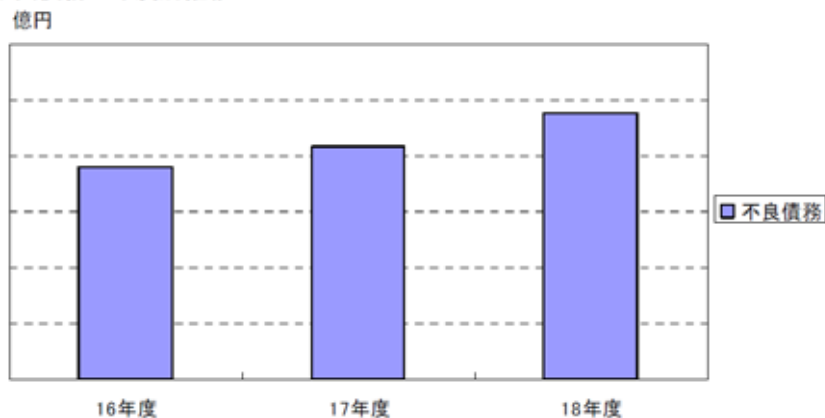
(3) 全事業数に占める経常損失・経常利益数の割合



(2) 損益と累積欠損金の年度別推移



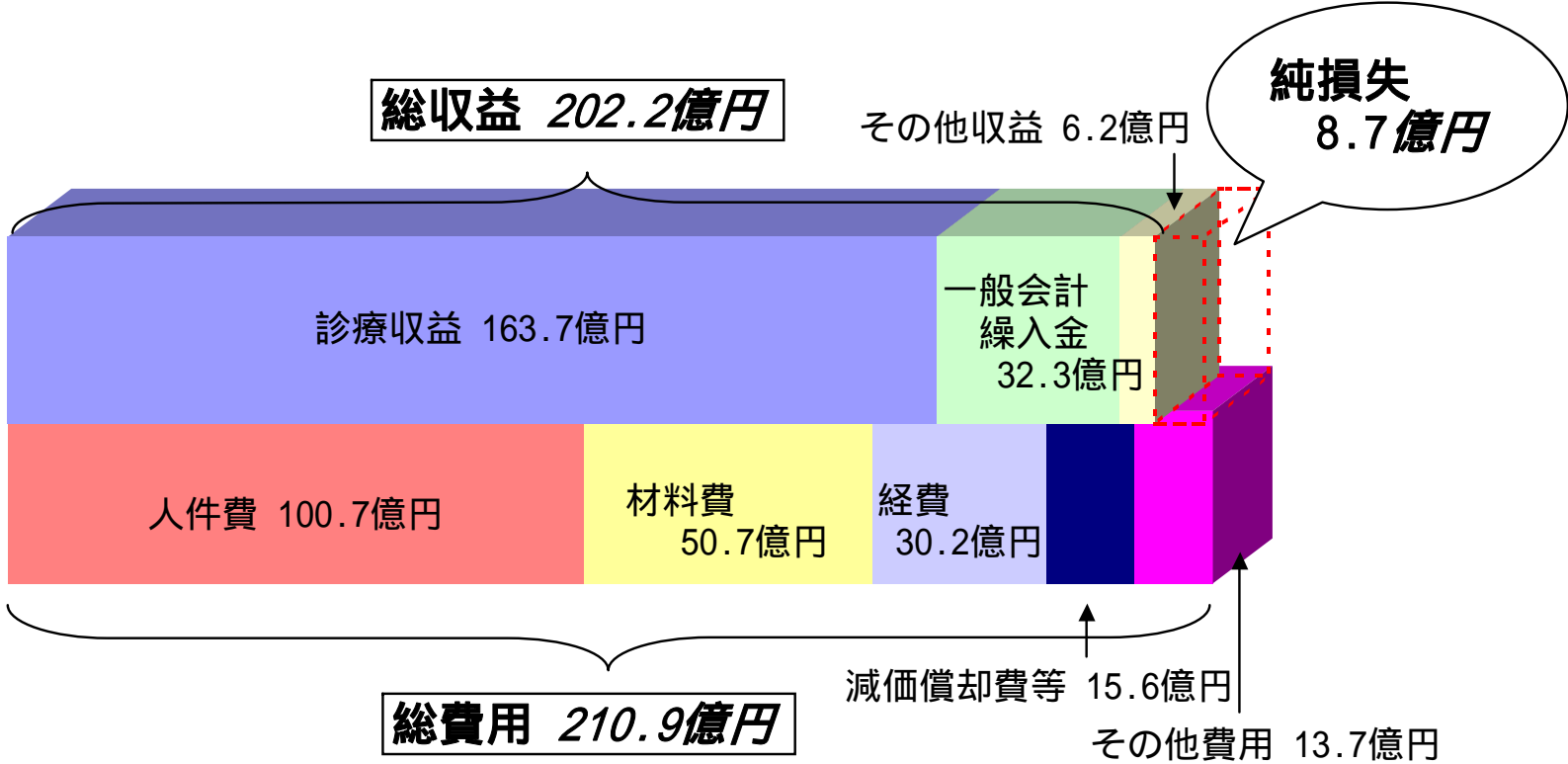
(4) 不良債務の年度別推移



経営状況

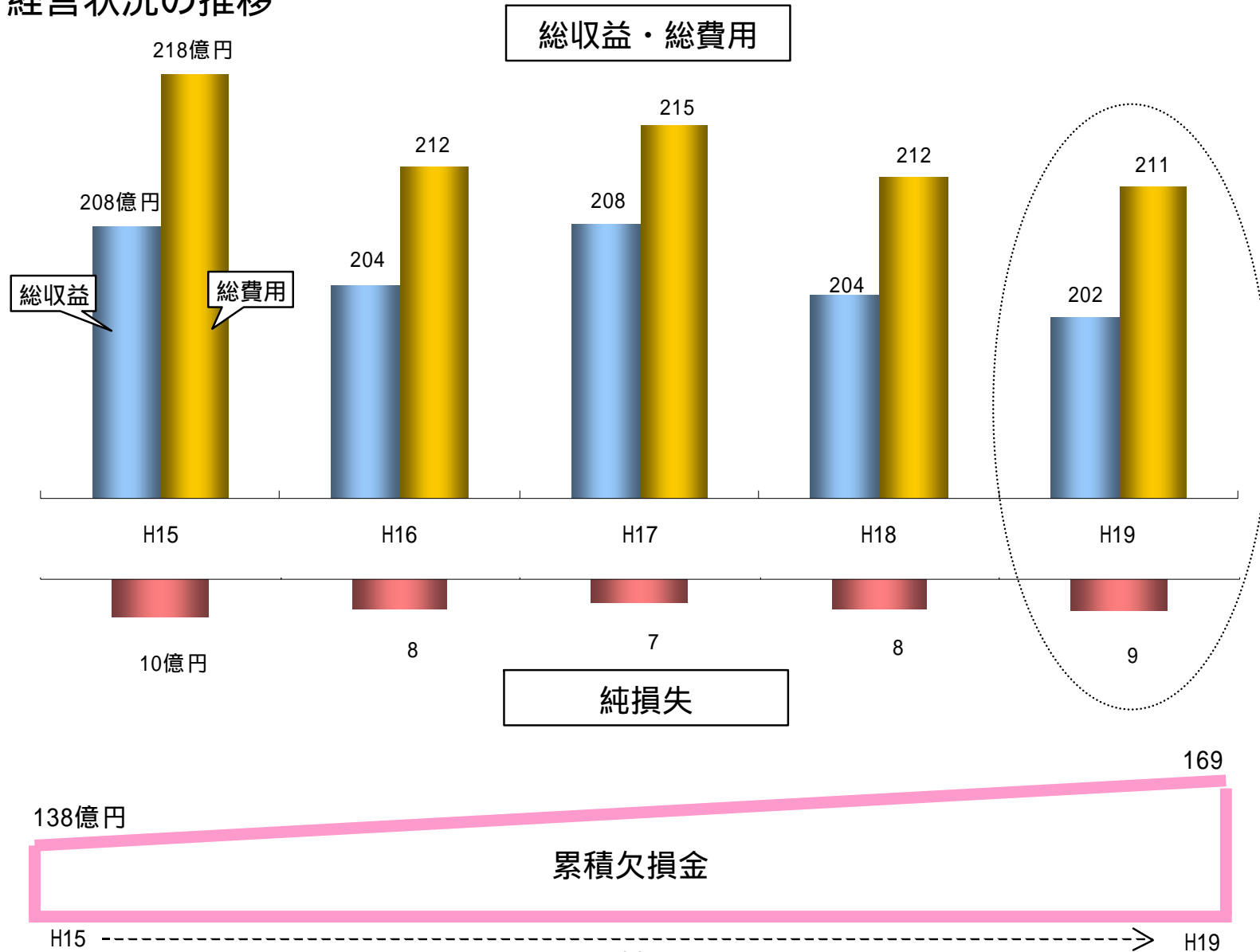
当院の財政状況 ～ 19年度決算の概要～

(1) 収益的収支 < 経営に伴って生じたすべての収益とそれに対応する費用 1年間の経営成績 >



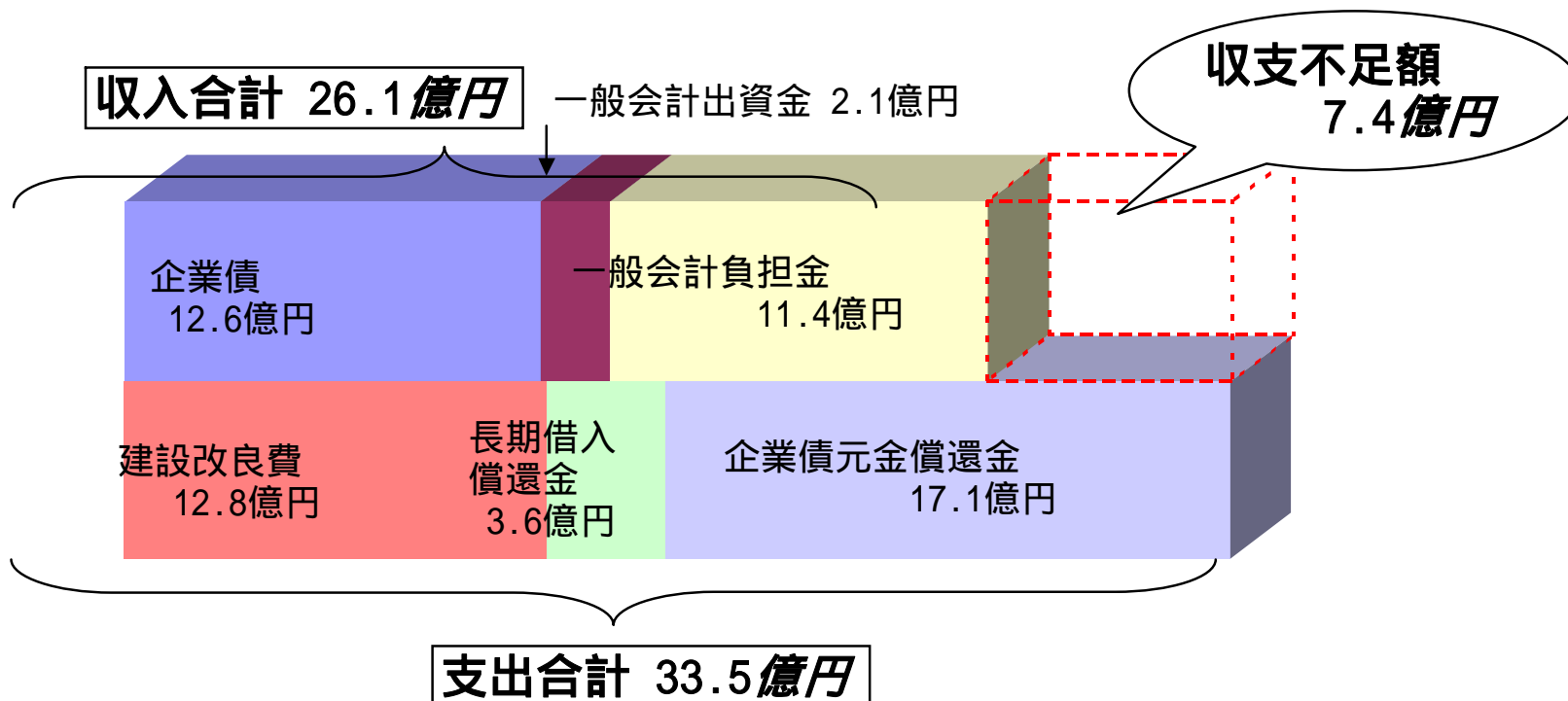
経営状況

(2) 経営状況の推移



経営状況

(3) 資本的収支 < 建物や医療機器などの整備費用とその財源、借入金の返済など >



建設改良費の内訳 (主要事業)

医療器械等購入	4.2 億円
---------	--------

循環器系 X 線診断装置、体外衝撃波結石破碎装置ほか

総合医療情報システム整備	8.6 億円
--------------	--------

電子カルテシステムを中核として、各部門のシステムを統合した総合医療情報システムの導入

経営状況

(4) 資金状況

当年度分資金残	・・・	0.2億円
年度末資金残	・・・	29.6億円

当年度分資金残・・・収益的収支及び資本的収支の過不足額に、現金支出を伴わない費用である減価償却費等を加味した額

年度末資金残・・・当年度分資金残と前年度までの資金残を合わせた額

これまでの経営改革への取り組み

市立札幌病院の改革の動き

- 平成14年12月 「市立札幌病院のあり方に関する懇話会」設置
- 当院が担うべき役割とその役割を果たすべき経営形態等について諮問
- 平成17年6月 「市立札幌病院パワーアッププラン」策定
- 当院が今後取り組むべき重点施策と計画目標をまとめる
- 平成18年1月 「市立札幌病院中期経営計画」策定
- パワーアッププランにおける経営手法の改革を具体化する取り組み
- 平成18年4月 地方公営企業法の全部適用へ移行



経営の健全化と安定した経営基盤の確立

これまでの経営改革への取り組み

「市立札幌病院あり方に関する懇話会」の概要

1 目的

札幌市の医療供給体制の中での、当院のあり方について検討を行うため、平成14年12月に病院長の諮問機関として設置。

2 諮問事項

- ・市立札幌病院が担うべき役割
- ・その役割を果たすための経営形態
- ・新臨床研修制度への対応

3 委員

会長 上村 友也 (財)結核予防会北海道支部常務理事

副会長 山田 和子 (社)北海道看護協会副会長

委員 河西 紀夫 (社)札幌市医師会副会長

委員 白井 英子 天使大学看護栄養学部教授

委員 丸山 知子 札幌医科大学保健医療学部長

委員 村上一則 (株)北海道医療新聞社代表取締役社長

これまでの経営改革への取り組み

「市立札幌病院あり方に関する懇話会」の概要

4 答申の概要(平成15年12月答申)

(1) 市立札幌病院が担うべき役割

基本的な考え方

- ・他の医療機関では対応が難しく、専門性や質の高い急性期医療
- ・他の医療機関では対応していない、あるいは量的に不足する政策医療及び行政的医療

検討が必要とされる事項

- ・救命救急センターの役割(3次救急医療機関が当院含め4病院存在し充実)
- ・少子化対策医療の充実(小児医療や周産期医療体制の拡充)
- ・精神科医療の見直し(身体合併症を持った精神疾病患者への対応)

具体的な取り組み

- ・診療科及び病床数の見直し
- ・人件費の削減(職員の嘱託化及び業務の委託化推進)
- ・機能分化への対応(地域医療機関との連携強化)

これまでの経営改革への取り組み

「市立札幌病院あり方に関する懇話会」の概要

4 答申の概要(平成15年12月答申) (続)

(2) その役割を果たすための経営形態

- ・地方公営企業法の全部適用及び企業管理者の設置
- ・人事・給与・予算等の権限強化と経営者責任の明確化

(3) 新たな医師臨床研修制度への対応

- ・臨床研修指定病院としての役割と医療水準の向上

(4) 今後、求める対応

- ・職員の意識改革と経営の効率化
- ・病院改革プランの策定と18年度までの具体的な着手

これまでの経営改革への取り組み

パワーアッププラン及び中期経営計画の概要

パワーアッププラン（H17.6策定 計画期間の定めなし）

目指す医療の基本方針

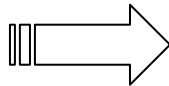
急性期医療 政策医療

重点施策・重点事業

医療提供体制の充実・強化

サービスアップの推進

経営手法の改革



具体策

地域連携、周産期医療、

病棟再編、静療院再編、

サービスアップ実施（患者満足度調査等）、

経営手法の改革（全適移行、中期経営計画の策定等）

計画目標（H19まで設定）

中期経営計画

（H18.1策定 計画期間H18～22）


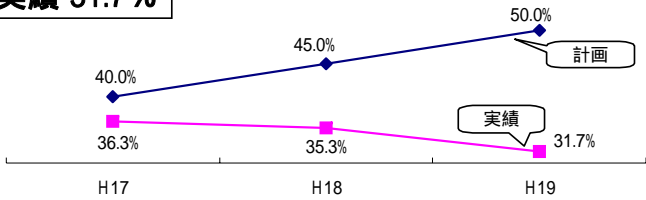


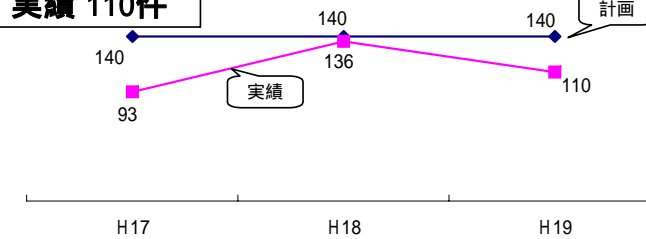
パワーアッププランを具体化する取り組み

・経営目標（指標）の設定

・中期的な財政収支見通し



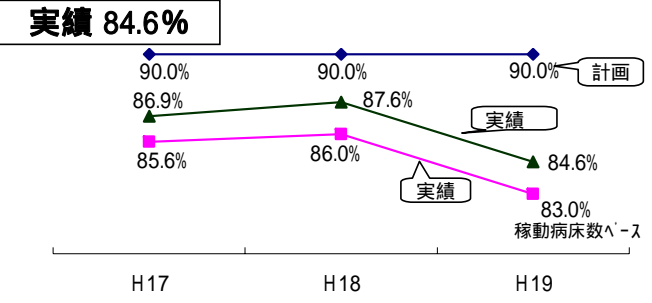

これまでの経営改革への取り組み

パワーアッププランの進捗状況

取組項目・内容	目標値等	19年度の実績												
<p>地域医療機関との連携強化 市立札幌病院は、札幌二次医療圏のみならず北海道全体の高度で専門性の高い医療を提供する基幹病院として重要な役割を担っております。 そのため、市民の生活圏域にある病院や診療所などと緊密な医療連携を結び、身近な医療は地域の医療機関で、また、急性期・高度医療を必要とするものは市立札幌病院が担うという地域完結型医療システムの確立を図ります。</p> 	<p>地域からの紹介率 19年度50%以上</p>	<p>実績 31.7%</p>  <table border="1"> <caption>地域からの紹介率実績</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>計画 (%)</th> <th>実績 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H17</td> <td>40.0</td> <td>36.3</td> </tr> <tr> <td>H18</td> <td>45.0</td> <td>35.3</td> </tr> <tr> <td>H19</td> <td>50.0</td> <td>31.7</td> </tr> </tbody> </table>	年度	計画 (%)	実績 (%)	H17	40.0	36.3	H18	45.0	35.3	H19	50.0	31.7
年度	計画 (%)	実績 (%)												
H17	40.0	36.3												
H18	45.0	35.3												
H19	50.0	31.7												
<p>周産期医療体制の拡充強化 妊娠高血圧症候群や切迫早産などのハイリスク妊婦や、超低出生体重児に対する高度かつ専門的な医療に対する需要については、依然として切実な問題があります。 安心して子供を産み育てるための環境づくりを推進するという総合周産期母子医療センターとしての使命に基づき、迅速な母体搬送の体制を構築し、高度な周産期医療を提供できるよう努めます。</p> 	<p>MFICU (母体・胎児集中治療室) 6床新設</p> <p>NICU (新生児集中治療室) 3床増設</p>	<p>6床新設(17年度)</p> <p>3床増設(計9床)(17年度)</p>												
	<p>母体搬送受入数 19年度140件</p>	<p>実績 110件</p>  <table border="1"> <caption>母体搬送受入数実績</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>計画 (件)</th> <th>実績 (件)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H17</td> <td>140</td> <td>93</td> </tr> <tr> <td>H18</td> <td>140</td> <td>136</td> </tr> <tr> <td>H19</td> <td>140</td> <td>110</td> </tr> </tbody> </table>	年度	計画 (件)	実績 (件)	H17	140	93	H18	140	136	H19	140	110
年度	計画 (件)	実績 (件)												
H17	140	93												
H18	140	136												
H19	140	110												

これまでの経営改革への取り組み

パワーアッププランの進捗状況

取組項目・内容	目標値等	19年度の実績																
<p>病棟機能の再編 プラン策定以前は、診療科別に定床数を保有しており、空床が生じても他の診療科患者の迅速な受け入れ体制が整わず、常時100床程度の空床を生じ、病院経営を圧迫する一因となっておりました。それを解消するため、早急に効率的な病床稼動を可能にするよう見直しを行い、急性期医療の提供に対応した病棟機能の再編に努めます。</p>  <p>本院病棟</p> 	<p>病床利用率(本院) 19年度90%以上</p>	<p>実績 84.6%</p>  <table border="1"> <caption>病床利用率(本院)実績</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>計画</th> <th>実績</th> <th>稼動病床数ベース</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H17</td> <td>90.0%</td> <td>86.9%</td> <td>85.6%</td> </tr> <tr> <td>H18</td> <td>90.0%</td> <td>87.6%</td> <td>86.0%</td> </tr> <tr> <td>H19</td> <td>90.0%</td> <td>84.6%</td> <td>83.0%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	計画	実績	稼動病床数ベース	H17	90.0%	86.9%	85.6%	H18	90.0%	87.6%	86.0%	H19	90.0%	84.6%	83.0%
年度	計画	実績	稼動病床数ベース															
H17	90.0%	86.9%	85.6%															
H18	90.0%	87.6%	86.0%															
H19	90.0%	84.6%	83.0%															
<p>精神科医療の再編 成人部門は、公的医療機関に求められる高度、特殊な精神科医療に特化し、民間医療機関との機能分化を推進するため、病床規模を段階的に縮小し、本院移転を視野に入れた条件整備を検討します。また、小児・自閉症児病棟については、障がい児福祉などの行政分野としての再構築し、専門医療相談機能をもった児童心療センターとして機能拡充を図ります。</p>  <p>静療院</p>	<p>平均在院日数(本院) 19年度17日以内</p>	<p>実績 15.9日</p>  <table border="1"> <caption>平均在院日数(本院)実績</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>計画</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H17</td> <td>17日以下</td> <td>17.2日</td> </tr> <tr> <td>H18</td> <td>17日以下</td> <td>16.4日</td> </tr> <tr> <td>H19</td> <td>17日以下</td> <td>15.9日</td> </tr> </tbody> </table> <p>当初スケジュールを前倒して実施し、老人病棟と成人2階病棟を18年度末に廃止(現在、一般精神部門102床)。老人病棟を小児病棟へと改修。成人部門の本院移転については、今年7月のDPC導入に伴うベッドの空床状況を見極めたうえで判断。 児童部門は、乳幼児健診時における静療院のセラピストによる相談事業の拡大、障がいのある児童生徒に対する就学相談業務への支援</p>	年度	計画	実績	H17	17日以下	17.2日	H18	17日以下	16.4日	H19	17日以下	15.9日				
年度	計画	実績																
H17	17日以下	17.2日																
H18	17日以下	16.4日																
H19	17日以下	15.9日																

これまでの経営改革への取り組み

パワーアッププランの進捗状況

その他の目標項目については概ね達成されています。

経営手法の改革

- ・地方公営企業法の全部適用(H18.4実施)

サービスアップの推進

- ・患者満足度調査の実施(H16年度から実施中)
- ・相談窓口の統合化(H17年度実施)

経営効率化の推進

- ・ESCO事業の実施(H18年度から実施中)
- ・総合医療情報システムの整備・電子カルテの導入
(H20.1稼動)

これまでの経営改革への取り組み

中期経営計画の進捗状況

計画目標は概ね達成されています。

主な取組項目	目標値等	19年度の実績																																													
経常収支の改善	経常収支比率 96.3% (19年度)	<p>実績 95.8% (単位:百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">19年度</th> </tr> <tr> <th>計画</th> <th>決算</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収益的収入</td> <td>21,021</td> <td>20,225</td> <td>796</td> </tr> <tr> <td>収益的支出</td> <td>21,841</td> <td>21,091</td> <td>750</td> </tr> <tr> <td>経常損益</td> <td>806</td> <td>880</td> <td>74</td> </tr> <tr> <td>純損益</td> <td>820</td> <td>867</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>累積欠損金</td> <td>17,032</td> <td>16,949</td> <td>83</td> </tr> </tbody> </table> <p>純損益と累積欠損金 (単位:百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>純損益(計画)</th> <th>純損益(実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H18</td> <td>-936</td> <td>-806</td> </tr> <tr> <td>H19</td> <td>-820</td> <td>-866</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>-932</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>-732</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>-693</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		19年度			計画	決算	増減	収益的収入	21,021	20,225	796	収益的支出	21,841	21,091	750	経常損益	806	880	74	純損益	820	867	47	累積欠損金	17,032	16,949	83	年度	純損益(計画)	純損益(実績)	H18	-936	-806	H19	-820	-866	H20	-932	-	H21	-732	-	H22	-693	-
	19年度																																														
	計画	決算	増減																																												
収益的収入	21,021	20,225	796																																												
収益的支出	21,841	21,091	750																																												
経常損益	806	880	74																																												
純損益	820	867	47																																												
累積欠損金	17,032	16,949	83																																												
年度	純損益(計画)	純損益(実績)																																													
H18	-936	-806																																													
H19	-820	-866																																													
H20	-932	-																																													
H21	-732	-																																													
H22	-693	-																																													
単年度資金収支の安定確保	当年度分資金残 46百万円 (19年度)	<p>実績 22百万円 (単位:百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">19年度</th> </tr> <tr> <th>計画</th> <th>決算</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当年度分資金残</td> <td>46</td> <td>22</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>年度末資金残</td> <td>2,860</td> <td>2,957</td> <td>97</td> </tr> </tbody> </table>		19年度			計画	決算	増減	当年度分資金残	46	22	24	年度末資金残	2,860	2,957	97																														
	19年度																																														
	計画	決算	増減																																												
当年度分資金残	46	22	24																																												
年度末資金残	2,860	2,957	97																																												

これまでの経営改革への取り組み

中期経営計画の進捗状況

主な取組項目	目標値等	19年度の実績																																			
一般会計繰入金の縮減	一般会計繰入額 4,325百万円 (19年度)	<p>実績 4,305百万円 (単位:百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">19年度</th> </tr> <tr> <th>計画</th> <th>決算</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般会計繰入金</td> <td>4,325</td> <td>4,305</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table> <p>長期借入金の償還に伴う財政措置分を含まない金額である。</p> <p>一般会計繰入金の推移</p> <table border="1"> <caption>一般会計繰入金の推移 (単位:百万円)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H12</td><td>5,345</td></tr> <tr><td>H13</td><td>4,974</td></tr> <tr><td>H14</td><td>5,035</td></tr> <tr><td>H15</td><td>4,953</td></tr> <tr><td>H16</td><td>4,460</td></tr> <tr><td>H17</td><td>4,391</td></tr> <tr><td>H18</td><td>4,571</td></tr> <tr><td>H19</td><td>4,325</td></tr> <tr><td>H20</td><td>4,380</td></tr> <tr><td>H21</td><td>4,317</td></tr> <tr><td>H22</td><td>4,181</td></tr> </tbody> </table>		19年度			計画	決算	増減	一般会計繰入金	4,325	4,305	20	年度	金額	H12	5,345	H13	4,974	H14	5,035	H15	4,953	H16	4,460	H17	4,391	H18	4,571	H19	4,325	H20	4,380	H21	4,317	H22	4,181
	19年度																																				
	計画	決算	増減																																		
一般会計繰入金	4,325	4,305	20																																		
年度	金額																																				
H12	5,345																																				
H13	4,974																																				
H14	5,035																																				
H15	4,953																																				
H16	4,460																																				
H17	4,391																																				
H18	4,571																																				
H19	4,325																																				
H20	4,380																																				
H21	4,317																																				
H22	4,181																																				
企業債残高の縮減	年度末現在高 30,427百万円 (19年度)	<p>実績 30,042百万円 (単位:百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">19年度</th> </tr> <tr> <th>計画</th> <th>決算</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企業債残高</td> <td>30,427</td> <td>30,042</td> <td>385</td> </tr> </tbody> </table>		19年度			計画	決算	増減	企業債残高	30,427	30,042	385																								
	19年度																																				
	計画	決算	増減																																		
企業債残高	30,427	30,042	385																																		